

**Iwatani**

**2023年3月期  
決算説明資料**

**2023年5月24日  
岩谷産業株式会社  
〔証券コード 8088〕**

（見直しに関する注意事項）  
将来にわたる部分につきましては、予想に基づくものであり、確約や保証を与えるものではありません。  
当然のことながら、予想と違う結果と成ることがあることを十分にご認識の上ご活用ください。

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

## 1. 2023年3月期 決算概況

- 決算ハイライト
- 連結経営成績（増収分析）
- 連結経営成績（増減益分析）
- 連結経営成績（セグメント別）
- セグメント別営業利益分析
- 貸借対照表（連結）
- キャッシュ・フロー計算書

## 2. 2024年3月期 通期業績予想

- セグメント変更について
- 通期業績予想
- セグメント別見通し
- 配当性向について

## 3. P L A N 2 3の振り返り

- 経営目標の振り返り
- 投資実績
- 基本戦略の振り返り

## 2023年3月期 決算概況

# 2023年3月期 決算ハイライト

▶ **売上高は増収。営業利益は微減となったものの、  
経常利益・当期純利益は8年連続で最高益を更新。**

## 2023年3月期 決算概要

- 売上高は、コロナ禍からの社会経済活動の正常化による主力商品の販売増加や、各種市況上昇への対応、LPガス輸入価格の高値推移により、全セグメントで増収。
- 営業利益は、LPガス市況要因が対前年で大幅なマイナスとなり、減益。
- 経常利益・当期純利益は8年連続で最高益を更新。  
中期経営計画PLAN23の目標である経常利益400億円を、1年前倒しで達成。

売上高	9,062億円	前期比	+2,158億円 (+31.3%)
営業利益	400億円	前期比	▲0.4億円 (▲0.1%)
経常利益	470億円	前期比	+5億円 (+1.3%)
当期純利益	320億円	前期比	+20億円 (+6.9%)



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

3

2023年3月期は、昨年11月9日に発表しました業績予想をクリア致しました。

前年実績との比較では、営業利益でわずかに減益となりましたが、  
経常利益・当期純利益は増益となり、8年連続で最高益を更新しました。

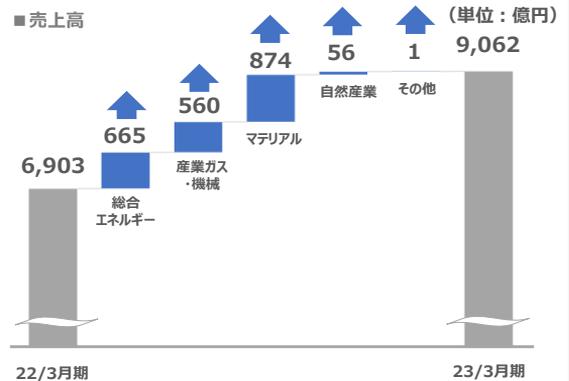
# 連結経営成績（増収分析）

（単位：億円）

## 増収要因

- コロナ禍からの社会経済活動の正常化に伴う主力商品の販売増加
  - 市況上昇への対応
  - LPガス輸入価格の高値推移
- ※過去最高の売上高

	2023/3月期 実績	2022/3月期 実績	増減額 (増減率)	2023/3月期 予想 (※)
売上高	9,062	6,903	+2,158 (+31.3%)	8,400
売上総利益	2,129	1,917	+211 (+11.0%)	—
営業利益	400	400	▲0 (▲0.1%)	400
営業外損益	69	63	+6 (+10.1%)	65
経常利益	470	464	+5 (+1.3%)	465
市況要因を除く 経常利益	501	384	+117 (+30.5%)	—
親会社株主に 帰属する 当期純利益	320	299	+20 (+6.9%)	300



(※) 2022年11月9日公表数字を記載

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

売上高は、コロナ禍からの社会経済活動の正常化に伴う主力商品の販売増加や、各種市況上昇への対応に加え、LPガス輸入価格が高値で推移したこともあり、前期に比べ2,158億円、31.3%増収の9,062億円となりました。

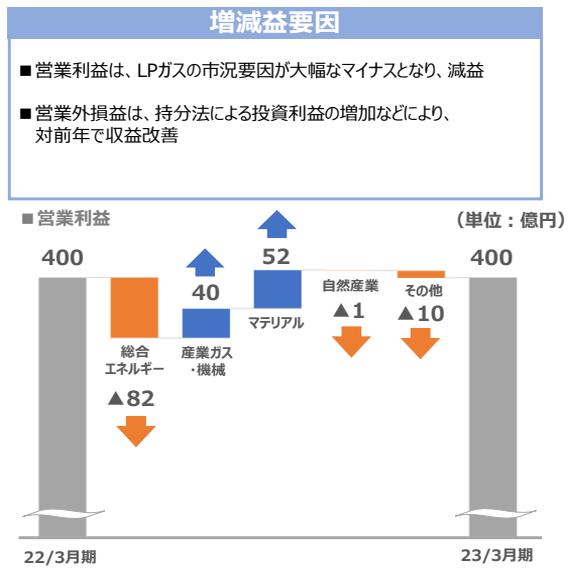
売上総利益は、LPガスの市況要因が前年比マイナス111億円と大きな減益要因となりましたが、主力商品の販売増や新規連結子会社の増益効果もあり、211億円、11.0%増益の2,129億円となりました。

# 連結経営成績（増減益分析）

（単位：億円）				
	2023/3月期 実績	2022/3月期 実績	増減額 (増減率)	2023/3月期 予想（※）
売上高	9,062	6,903	+2,158 (+31.3%)	8,400
売上総利益	2,129	1,917	+211 (+11.0%)	-
営業利益	400	400	▲0 (▲0.1%)	400
営業外損益	69	63	+6 (+10.1%)	65
経常利益	470	464	+5 (+1.3%)	465
市況要因を除く 経常利益	501	384	+117 (+30.5%)	-
親会社株主に 帰属する 当期純利益	320	299	+20 (+6.9%)	300

（※）2022年11月9日公表数字を記載

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.



営業利益ですが、販売増加に伴う物流費の増加等により、販管費が212億円増加し、前期比0.4億円、0.1%減益の、400億円となりました。

営業外損益は、持分法による投資利益などが増加したことにより、6億円の収益改善となり、経常利益は、5億円、1.3%増益の、470億円となりました。また、当期純利益は、20億円、6.9%増益の320億円となりました。

この結果、中期経営計画「PLAN23」の目標である経常利益400億円、ROE9%以上を、前期に続いて、2年連続でクリアできました。

# 連結経営成績（セグメント別）

Iwatani

	2023/3月期 実績	2022/3月期 実績	増減額	増減率	(単位：億円)
売上高	9,062	6,903	+2,158	+31.3%	
■ 総合エネルギー	3,937	3,271	+665	+20.3%	
■ 産業ガス・機械	2,404	1,843	+560	+30.4%	
■ マテリアル	2,384	1,509	+874	+57.9%	
■ 自然産業	289	233	+56	+24.0%	
■ その他	46	45	+1	+3.6%	
営業利益	400	400	▲0	▲0.1%	
■ 総合エネルギー	144	226	▲82	▲36.3%	
■ 産業ガス・機械	165	124	+40	+32.8%	
■ マテリアル	125	72	+52	+72.8%	
■ 自然産業	5	6	▲1	▲16.0%	
■ その他・調整額	▲40	▲29	▲10	-	
経常利益	470	464	+5	+1.3%	
市況要因を除く経常利益	501	384	+117	+30.5%	
親会社株主に帰属する 当期純利益	320	299	+20	+6.9%	

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

# LPガス輸入価格の変動による増減益効果（イメージ）

前提 ①卸売価格はLPガス輸入価格に連動

LPガス輸入価格  $\rightarrow$  卸売価格  
（中東玉と米国玉で構成）

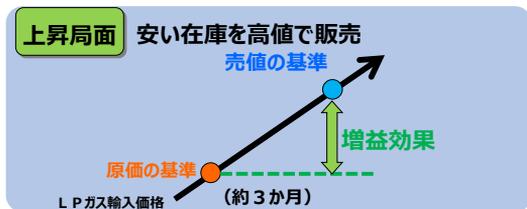
②輸入～販売の期間は約3ヶ月



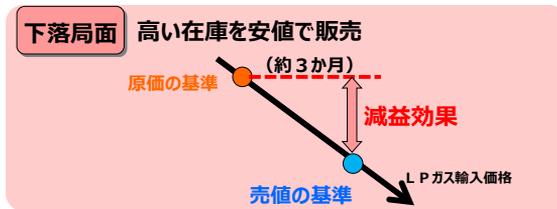
LPガス輸入  
価格が変動

短期的に業績に影響が生じる（市況要因の発生）

（LPガス輸入価格が元の水準に戻れば影響はゼロ）※



※ 在庫量・販売時期・販売数量によって実際の業績への影響は変動します



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

7

LPガスの輸入価格の変動が、業績に与える影響について、簡単に説明いたします。

当社は、LPガスを中東と米国から、輸入しており、輸入価格の変動を平準化するため、多くの卸売先との間で、販売価格を、輸入価格に連動させる、価格体系にしています。

一方、当社では在庫評価について、「先入れ先出し法」を採用していますが、LPガスの輸入から販売まで、時間がかかるため、販売する際には、約3ヶ月前の在庫を、販売することになります。

この結果、LPガス輸入価格の上昇時には、安い原価の在庫を高く売ることになる一方、下落時には、高い原価の在庫を安く売ることになります。これらの影響を、「市況要因」と呼んでおります。

# セグメント別営業利益分析（総合エネルギー事業）

決算実績						(単位：億円)	
	2023/3月期 実績	2022/3月期 実績	増減額	増減率	2023/3月期 予想	達成率	
売上高	3,937	3,271	+665	+20.3%	3,478	113.2%	
営業利益	144	226	▲82	▲36.3%	167	86.4%	
市況要因除く 営業利益	175	146	+28	+19.7%	161	108.7%	

主な営業利益増減要因							(単位：百万円)	
(億円)	1Q	2Q	上期 累計	3Q	4Q	通期 累計		
当期	+20.4	▲15.0	+5.3	▲29.3	▲7.3	▲31.3		
前期	+11.0	+11.0	+22.0	+49.1	+8.5	+79.7		
差異	+9.3	▲26.0	▲16.6	▲78.4	▲15.9	▲111.0		

営業利益増減分析							(単位：百万円)	
22/3月期	市況要因	小売	卸売	工業用	その他	23/3月期		
22,655	▲11,100	+2,120	+290	+50	+420	14,434		

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

総合エネルギー事業については、L P ガス直売顧客数の拡大や、新規連結子会社の影響により、販売数量が増加しました。

また、小売分野において、輸入価格の上昇に対する価格改定の遅れが解消したことなどから、収益性が改善し、総合エネルギー事業の売上高は665億円増収の、3,937億円となりました。

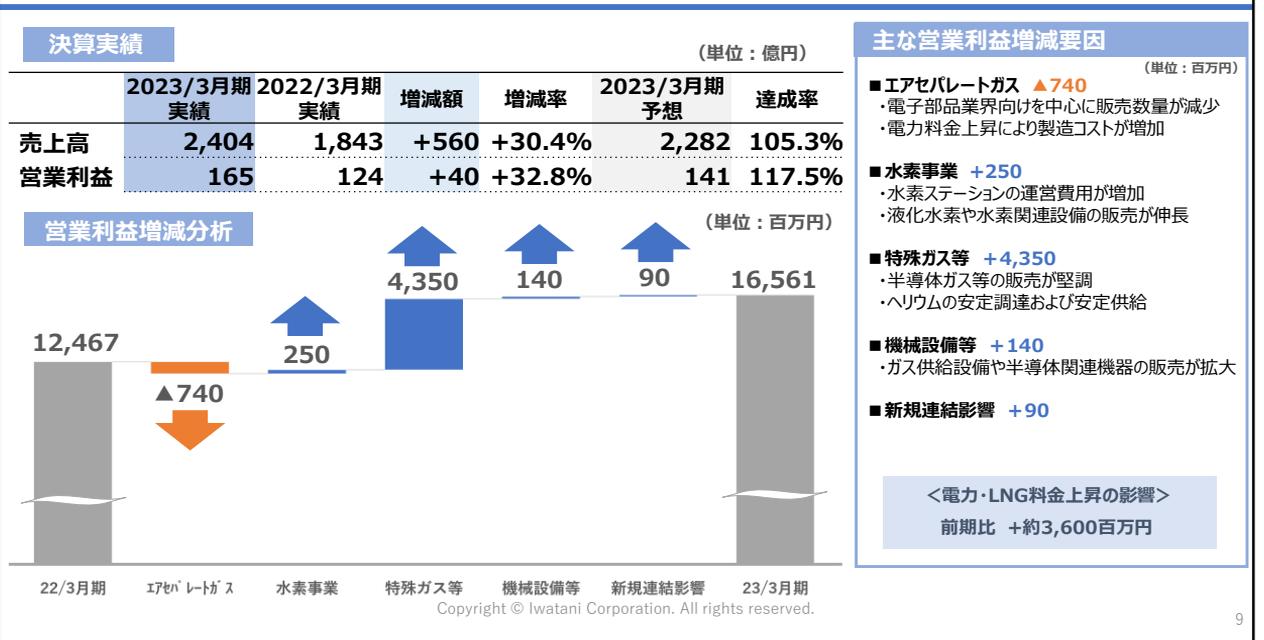
そのうち、L P ガスでは500億円の増収となり、数量要因で247億円、単価要因で253億円となります。

一方、L P ガスの市況要因が、前期比111億円の大幅なマイナスとなったことから、営業利益は36.3%減益の144億円となりました。

なお、市況要因を除いた営業利益は175億円で、プラス28億円、19.7%の増益となりました。

また、3月末時点のL P ガスの直売顧客数は、110万世帯です。

# セグメント別営業利益分析（産業ガス・機械事業）



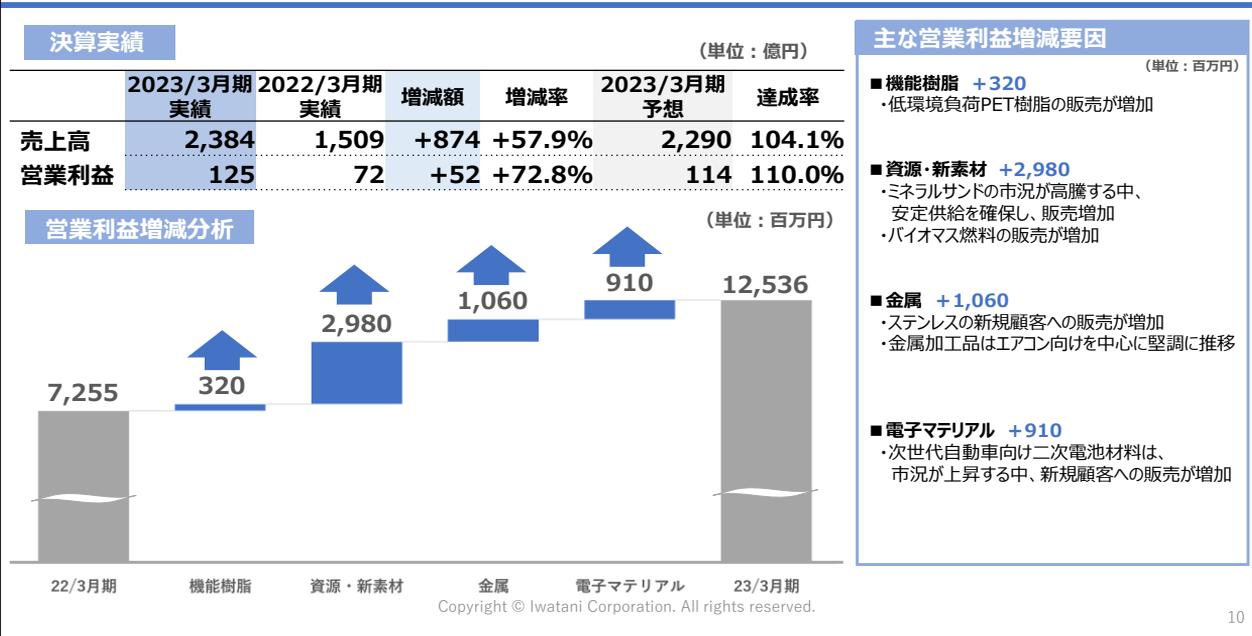
産業ガス・機械事業ですが、エアセレートガス(酸素・窒素・アルゴン)については、電子部品業界向けを中心に販売数量が減少したことに加え、電力料金の上昇により、製造コストが増加しました。

水素事業については、水素ステーションの運営費用は増加しましたが、電力等の製造コストの上昇に対する価格転嫁が進んだことに加え、脱炭素用途の新規ユーザー増加などにより、液化水素や関連設備の販売が伸長し、増益となりました。

特殊ガスについては、半導体ガスが堅調だったことに加え、ヘリウムは、世界的な需給ひっ迫により市況が上昇する中、安定供給に努めました。

また、機械設備も販売が伸長した結果、産業ガス・機械事業の売上高は560億円増収の、2,404億円となり、営業利益は32.8%増益の165億円となりました。

# セグメント別営業利益分析（マテリアル事業）



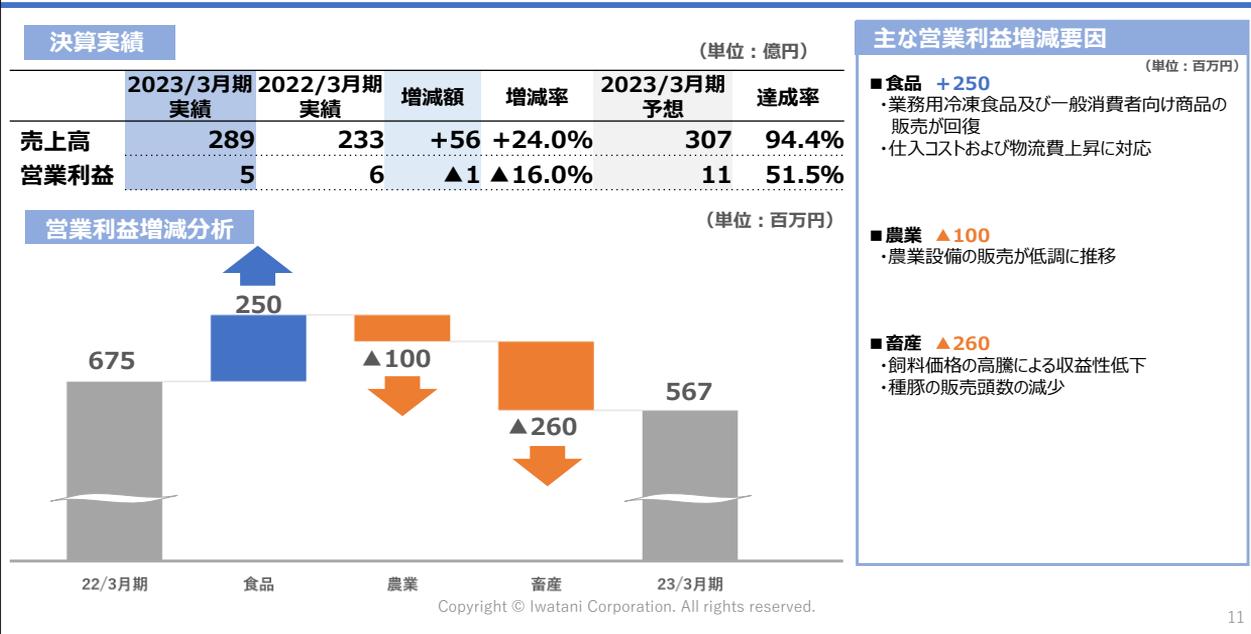
マテリアル事業ですが、ミネラルサンドについては、サプライチェーンの混乱により市況が高止まりする中、引き続き安定供給に努めました。

ステンレスは新規顧客向けに販売が増加し、金属加工品もエアコン向けを中心に堅調に推移しました。

また、次世代自動車向け二次電池材料は市況上昇の影響や新規顧客向けの販売により売上が増加し、低環境負荷PET樹脂やバイオマス燃料等の環境商品も伸長しました。

この結果、マテリアル事業の売上高は874億円増収の、2,384億円となり、営業利益は72.8%増益の、125億円となりました。

# セグメント別営業利益分析（自然産業事業）



自然産業事業は、業務用や一般消費者向け冷凍食品の需要が回復する中、仕入コストや物流費の上昇に対する価格転嫁を進めました。

一方で、畜産の飼料価格高騰に加え、種豚の出荷頭数が減少しました。

この結果、売上高は56億円増収の、289億円となり、営業利益は16.0%減益の5億円となりました。

# 貸借対照表（連結）

- 売上債権や棚卸資産の増加のほか、買収に伴い発生したのれん等の影響により総資産は増加。
- 買収資金として200億円の社債発行、国内外の更なる成長投資に向けた資金調達等により有利子負債が増加。

(単位：億円)

	2023年 3月末	2022年 3月末	増減額	主な増減理由・備考
流動資産	3,031	2,594	+437	売上債権や棚卸資産の増加
（有形固定資産）	2,074	1,857	+216	新規連結子会社影響、 水素ステーション建設やLPGセンターへの投資
（無形固定資産）	368	161	+206	新規連結子会社影響（のれん）
（投資その他の資産）	1,085	970	+114	
固定資産	3,528	2,990	+538	
総資産	6,560	5,584	+975	
（流動負債）	2,124	1,863	+261	買入債務の増加
（固定負債）	1,313	918	+394	社債の発行、長期借入金の増加
負債	3,437	2,781	+656	有利子負債 1,394億円（+282億円） 有利子負債依存度 21.2%
（自己資本）	3,019	2,701	+318	自己資本比率 46.0%
（非支配株主持分）	102	101	+0	
純資産	3,122	2,803	+319	
負債・純資産	6,560	5,584	+975	

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

12

主な財政状態についてご説明致します。

3月末の総資産は、前期末比975億円増加の6,560億円となりました。

自己資本は、318億円増加の3,019億円となり、

自己資本比率は2.4ポイント低下し、46.0%となりました。

有利子負債は、運転資金の増加およびM&Aの影響により、

前期末比282億円増加し、1,394億円となり、

有利子負債依存度は1.3ポイント増加し、21.2%となりました。

# キャッシュ・フロー計算書

- 営業キャッシュ・フローは514億円の収入。投資キャッシュ・フローは、連結範囲の変更を伴う子会社株式の取得や積極的な設備投資等により602億円の支出となり、結果、フリーキャッシュ・フローは88億円の支出。

(単位：億円)

	2023/3月期 実績	2022/3月期 実績	増減額
営業キャッシュ・フロー	514	130	+383
投資キャッシュ・フロー	▲602	▲319	▲283
フリー・キャッシュ・フロー	▲88	▲188	+100
財務キャッシュ・フロー	110	80	+29
換算差額等 ※1	14	19	▲10
現預金等の増減額 ※2	36	▲88	+119
現預金等の期首残高	295	384	▲88
現預金等の期末残高	332	295	+36

※1 「換算差額」「連結の範囲の変更に伴う増減額」「非連結子会社との合併に伴う増加額」の合計を表示しております

※2 「現預金等の期首残高」と「現預金等の期末残高」の差額を表示しております

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

キャッシュフローについてご説明致します。

営業キャッシュフローは、利益の増加に加え、前期に運転資金が増加した影響が解消したことから、前期比で383億円増加し、514億円の収入となりました。

投資キャッシュフローは、M & Aによる支出に加え、

L Pガス・各種産業ガスなどの供給体制強化のための投資などにより、602億円の支出となり、

結果、フリーキャッシュフローはマイナス88億円となりました。

また、財務キャッシュフローは、社債の発行などにより110億円の収入となりました。

## 2024年3月期 通期業績予想

# セグメント変更について

## ▶ 自然産業事業を除外し、3事業へと変更。

- ・ 総合エネルギー事業 : 一部の連結子会社を「その他」に組替
- ・ 自然産業事業 : 食品事業を「その他」に組替  
一部の連結子会社を「マテリアル」に組替

(単位: 億円)

	2023/3月期 実績(組替後)	2023/3月期 実績(組替前)	2023/3月期 組替額
売上高	9,062	9,062	-
■ 総合エネルギー	3,932	3,937	▲5
■ 産業ガス・機械	2,404	2,404	-
■ マテリアル	2,424	2,384	+39
■ 自然産業	-	289	▲289
■ その他	302	46	+255
営業利益	400	400	-
■ 総合エネルギー	143	144	▲1
■ 産業ガス・機械	165	165	-
■ マテリアル	126	125	+0
■ 自然産業	-	5	▲5
■ その他・調整額	▲34	▲40	+6

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

15

セグメントについては、自然産業事業を外し、3事業へと変更しました。

自然産業事業は、事業規模が全社の3%程度と小さく、  
また、ここ数年で事業の成長性が鈍化していることから、  
2023年4月に、親会社の食品事業を連結子会社へ移管・集約するなど、  
組織変更を行っております。

# 2024年3月期 通期業績予想

Iwatani

(単位：億円)

	2024/3月期 予想	2023/3月期 実績	増減額	増減率
売上高	9,070	9,062	+7	+0.1%
■総合エネルギー事業	3,980	3,932	+47	+1.2%
■産業ガス・機械事業	2,592	2,404	+187	+7.8%
■マテリアル事業	2,202	2,424	▲222	▲9.2%
■その他	296	302	▲6	▲2.0%
営業利益	450	400	+49	+12.4%
■総合エネルギー事業	180	143	+36	+25.9%
■産業ガス・機械事業	175	165	+9	+5.7%
■マテリアル事業	123	126	▲3	▲2.4%
■その他・調整額	▲28	▲34	+6	-
経常利益	503	470	+32	+7.0%
市況要因を除く経常利益	503	501	+1	+0.3%
親会社株主に帰属する当期純利益	335	320	+14	+4.6%

## 想定レート

為替 125円/\$

L P ガス輸入価格 700 \$ / トン

(2022年度実績)

為替 133.7円/\$

L P ガス輸入価格 725 \$ / トン

## 配当予想

2024年3月期 95円/株

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

16

次期業績については、

売上高は、 0.1%増収の 9,070億円

営業利益は、 12.4%増益の 450億円

経常利益は、 7.0%増益の 503億円

当期純利益は、 4.6%増益の 335億円

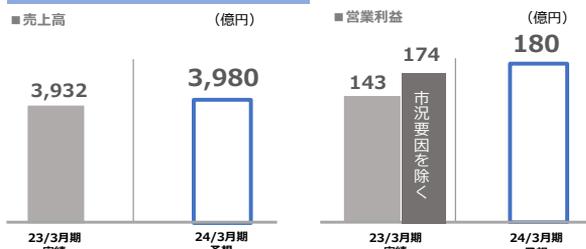
を予定しています。

2024年3月期は、マテリアル事業において、  
高値で推移していた資源価格の下落による影響を見込んでおりますが、  
各セグメントとも概ね順調に推移する見通しです。

なお、業績予想の前提となる為替の想定は、1ドル125円としており、  
L P ガス輸入価格 (C P) の想定は、1トンあたり700ドルとしております。

# 総合エネルギー事業の見通し

## 売上高・営業利益 見通し



## 営業利益増減見通し



## 通期業績予想の達成に向けて

- LPガス事業の拡大**
  - M&Aを中心とした直売顧客数の拡大による、LPガス販売数量の増加
  - お客様の低・脱炭素化支援に繋がる燃料転換の推進とカーボンフセットLPガスの拡販
- エネルギー関連機器等の拡販**
  - 家庭のCO2排出量削減に貢献するハイブリッド給湯器及びエネファームの拡販
  - BCP対策に向けたLPガス非常用発電機やGHPの拡販
- カートリッジガス事業の拡大**
  - 国内では、アウトドア需要や回復する業務用需要の着実な取り込み
  - 海外では、中国に加え、タイの新工場を起点とし、東南アジアを中心に販売を強化

## 業績が変動する主な要因

- LPガス輸入価格、為替の変動
- 気温変動による販売数量への影響

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

総合エネルギー事業は、  
売上高は、3,980億円で1.2%の増収、  
営業利益は、180億円で25.9%の増益を予想しております。

前期は、市況要因により、マイナス31億円の影響がありましたが、  
今期は影響を見込んでおりません。前期の市況要因を除くと、  
営業利益ではプラス5億円、3.2%の増益となります。

LPガスについては、直売顧客数を拡大するとともに、  
工業用の顧客向けに、燃料転換を推進するなど、  
取引先の脱炭素化ニーズに対応して参ります。

エネルギー関連機器は、ご家庭のCO2排出量削減に貢献する  
ハイブリッド給湯器やエネファームの拡販に加え、  
LPガス非常用発電機等、BCP需要の取り込みを図ります。

カートリッジガス事業においては、アウトドア商品の開発などにより  
新市場の創出に努めるとともに、  
タイの新工場を起点として、東南アジアを中心に海外事業の拡大を図ります。

# 産業ガス・機械事業の見通し

## 売上高・営業利益 見通し



## 営業利益増減見通し



## 通期業績予想の達成に向けて

- ・**エアセパレートガスの適正な価格転嫁と拡販**
  - ・ 電力料金の変動に沿った適正な価格転嫁
  - ・ 自動車業界の復調による需要を取り込み、販売を強化
- ・**液化水素の新規需要取り込み**
  - ・ 脱炭素に関連して、液化水素や設備投資の需要取り込みを進め、拡販を強化
- ・**特殊ガスの事業拡大**
  - ・ ヘリウムの需給ひっ迫が継続する中、安定供給に注力
  - ・ 炭酸ガス等の販売を強化
- ・**機械設備の拡販**
  - ・ 脱炭素・自動車関連等の成長分野向けの新規案件獲得に向けて注力

## 業績が変動する主な要因

- ・ 電力料金・LNG市況上昇による製造コストへの影響
- ・ 製造業の生産動向

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

産業ガス・機械事業ですが、  
売上高は、2,592億円で7.8%の増収、  
営業利益は、175億円で5.7%の増益を予想しております。

エアセパレートガスについては、引き続き拡販に取り組むとともに、  
価格転嫁の遅れを解消することに努め、収益性の改善を図ります。

液化水素については、拡大する脱炭素用途の需要に対して、  
拡販を強化して参ります。

特殊ガスについては、引き続き、ヘリウムの需給がひっ迫すると想定される中、  
安定供給に努めて参ります。

機械設備については、脱炭素、自動車関連など成長分野への拡販を促進します。

# マテリアル事業の見通し

## 売上高・営業利益 見通し



## 営業利益増減見通し



## 通期業績予想の達成に向けて

- ・**鉱物資源事業の強化**
  - ・ 市況価格が下落傾向の中、調達数量の確保
  - ・ 新たな権益獲得に向けた取り組みの推進
- ・**環境ビジネスの強化**
  - ・ 低環境負荷PET樹脂・バイオマス燃料・二次電池材料の拡販
  - ・ リサイクル事業など、新たな取り組みの推進
- ・**金属事業の拡大**
  - ・ ステンレスの新規顧客への拡販
  - ・ 海外金属加工事業の拡大
- ・**先端材料の拡販**

## 業績が変動する主な要因

- ・ 資源市況の変動
- ・ 為替変動

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

マテリアル事業については、  
売上高が2,202億円で9.2%の減収、  
営業利益は123億円で2.4%の減益を予想しております。

資源関連では、昨年まで高騰していた市況が下落基調に転じており、  
また、二次電池材料で在庫調整の動きもあることなどが、減益予想の要因です。

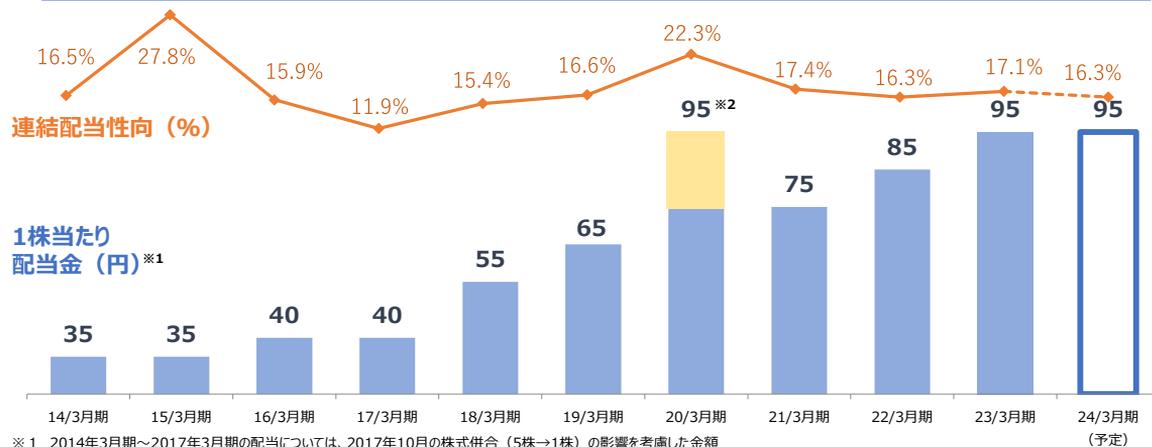
このような中、ステンレスや金属加工品に加え、  
低環境負荷PET樹脂、バイオマス燃料など環境商品の拡販に取り組みます。

また、中長期的な成長に向けて、新たな資源の権益獲得に向けた  
取り組みを進めるとともに、リサイクル事業などの新たな取り組みにも着手して参ります。

## ▶ 2024年3月期は、1株あたり95円の配当を予定。

### 配当方針

- ・ 継続的かつ安定的な配当の実施が基本方針
- ・ 業績や経営環境を勘案しつつ適正な利益還元を実施



※1 2014年3月期～2017年3月期の配当については、2017年10月の株式併合（5株→1株）の影響を考慮した金額

※2 うち記念配当20円含む

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

2023年3月期の配当につきましては、期初予想から10円増配し、95円を予定しており、配当性向は17.1%となります。

今後とも業績や経営環境を慎重に考慮しながら、適正な利益還元を実施していきたいと考えております。

## PLAN 23の振り返り

## ▶ 経営目標については、1年前倒しで達成

基本戦略
1. 脱炭素社会に向けた取り組み強化
2. エネルギー生活総合サービス事業者への進化
3. 海外事業の拡大

(単位：億円)

利益項目	2022年度 実績	PLAN23 計画値	2022年度 差
総合エネルギー事業 [市況要因除く]	144 [175]	180	△35 [△4]
産業ガス・機械事業	165	125	+40
マテリアル事業	125	65	+60
自然産業事業	5	16	△10
その他・消去	△40	△31	△9
営業利益(全社計)	400	355	+45
経常利益	470	400	+70
市況要因を除く経常利益	501	400	+101
親会社株主に帰属する当期純利益	320	265	+55

経営数値目標	2022年度 実績	PLAN23 目標値
経常利益 [市況要因除く]	470億円 [501億円]	400億円
ROE (自己資本利益率)	11.2%	9%以上

重要事業指標	2022年度 実績	PLAN23 目標値
LPガス直売顧客数	110万世帯	110万世帯
カセットこんろ・ボンベ 販売数量	こんろ34,291千台 ボンベ157百万本	こんろ6,500千台 ボンベ180百万本
エアセバレートガス 販売数量	16.0億m <sup>3</sup>	17.0億m <sup>3</sup>
液化水素 販売数量	77百万m <sup>3</sup>	90百万m <sup>3</sup>

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

22

中期経営計画「PLAN23」では、基本戦略として、「脱炭素社会に向けた取り組み強化」、「エネルギー生活総合サービス事業者への進化」、「海外事業の拡大」を掲げ、各事業が成長に向けた取り組みを進めました。

経営数値目標については、2024年3月期の目標値である「経常利益400億円」、「ROE9%以上」に対し、実績は、経常利益470億円、ROE11.2%となり、1年前倒しで達成することができました。

重要事業指標については、LPガスの直売顧客数は、大型M&Aが実現したことなどから、110万世帯となり、目標を達成しています。

その他の指標についても、最終年度の目標には届いていないものの、概ね順調な進捗となりました。

# PLAN23における投資実績

## ▶ 3年間累計1,500億円の目標を掲げ、積極的な成長投資を実施

### PLAN23 成長投資目標と進捗

2021年度実績

400億円



2022年度実績

700億円



2年間累計

1,100億円

3年間累計 計画値

1,500億円

1,500億円

水素エネルギー  
社会の推進  
600億円

成長投資  
700億円

保守・修繕など  
200億円

PLAN23 計画

1,100億円

342億円

625億円

132億円

2年間累計

#### 主な投資実績

- JH y M出資等の水素ステーション建設関連(2021-22)
- トキコシステムソリューションズ株式購入(2022)
- エネライフ株式購入(2022)
- 国内外での産業ガス製造プラント増設(2021-22)
- 米国アスペンエア―買収(2023)
- 岩谷オーストラリア 鉱区開発(2021-22)
- ノルディック・マイニング社 チタン鉱石権益確保(2022)

総合エネルギー

産業ガス・機械

産業ガス・機械

マテリアル

マテリアル

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

投資については、3年間累計で1,500億円の計画に対して、2ヶ年累計で1,100億円の実績となりました。

2022年度には、LPガス販売会社のエネライフ、水素関連機器メーカーであるトキコシステムソリューションズ、並びに米国の産業ガス製造、販売会社であるアスペンエア―のM & Aを実行しました。

また、LPガス・産業ガスなど、製造・供給設備への投資に加え、マテリアル事業でも資源採掘事業を行うノルディック・マイニングへの出資を行い、供給体制の強化を図りました。

各事業の中長期的な成長に資する投資は、概ね計画通り進捗しています。

## ▶ 「脱炭素社会に向けた取り組み強化」を着実に遂行

### 主要な成果

#### 1) CO2フリー水素サプライチェーン構築の推進

- ・ 液化水素運搬船による日豪間の海上輸送・荷役の実証試験を完遂
- ・ グリーンイノベーション基金事業における海外出荷地は豪州ビクトリア州、国内受け入れ地を川崎臨海部に決定



(日豪サプライチェーン完遂記念式典)



(日豪サプライチェーン 出荷地と受け入れ地)

#### 2) カーボンオフセット L P ガスの販売を開始

- ・ 総合エネルギー事業におけるお客さまの低・脱炭素化支援を強化



(カーボンオフセット L P ガスの販売スキーム)

#### 3) 環境商品の販売拡大に注力

- ・ 低環境負荷 P E T 樹脂、バイオマス燃料、二次電池材料の拡販
- ・ 計画の 2 倍以上の成長率を達成



(低環境負荷PET樹脂)



(バイオマス燃料)



(二次電池材料)

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

基本戦略の主な成果についてご説明します。  
「脱炭素社会に向けた取り組み強化」については、  
CO2フリー水素サプライチェーンの構築を着実に推進しました。

2022年2月には、当社が参画する実証事業において、  
液化水素運搬船による日豪間の海上輸送実証を完遂しました。

グリーンイノベーション基金事業に採択されている  
「液化水素サプライチェーンの商用化実証」については、  
海外の出荷地が、褐炭が豊富なオーストラリアのビクトリア州、  
国内の受け入れ地は、近隣の水素需要のポテンシャルが高い  
神奈川県川崎臨海部に決定するなど、順調に進捗しています。

今後も引き続き、商用規模での液化水素の輸送技術確立と、  
水素コストの目標である2030年時点での1立方メートルあたり  
30円の実現に向けて、実証に参画して参ります。

また、脱炭素の流れが加速する中で、液化水素を脱炭素用途で使用する  
新規顧客が増加したほか、総合エネルギー事業でもカーボンオフセットLPガスの販売を  
開始するなど、事業機会の拡大を実現しました。

マテリアル事業では、環境商品の拡販に注力した結果、低環境負荷PET樹脂、  
バイオマス燃料、二次電池材料の売上高の合計は770億円と、  
2020年度と比較して、4倍を超える規模まで成長しました。

脱炭素という社会課題の解決は、当社の社会的な使命と考えており、  
今後も事業活動を通じて貢献して参ります。

## ▶ 「エネルギー生活総合サービス事業者への進化」に向けて、顧客基盤の拡大と新サービスの拡充に注力

### 主要な成果

#### M & Aの推進による顧客基盤の拡大

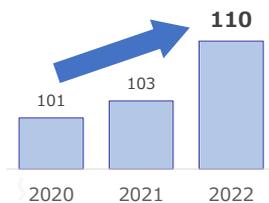
- ・ エネライフの大型M & Aの実施
- ・ 目標110万世帯を1年前倒しで達成

#### 社会課題解決に貢献する新サービスの創造

- ・ 子供、高齢者の見守りサービスの展開
- ・ 家庭のCO<sub>2</sub>排出削減量をJ-クレジットにより環境価値化



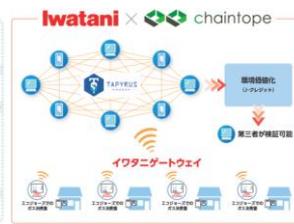
[LPガス直売顧客数] (単位: 万世帯)



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.



(見守りサービス イメージ図)



(イワタニゲートウェイを活用した環境価値化サービス)

「エネルギー生活総合サービス事業者への進化」については、M & A等による顧客基盤の拡大と、顧客基盤を活かした新たな商品やサービスの創造に取り組みました。

LPガス業界では、業界の集約が進む中で、事業継承の課題を抱える小規模事業者が数多くおられるため、当社は、全国のネットワークを活かして、M & Aにつなげています。

今後も、輸入からご家庭への配送まで、全国に供給網を展開している強みを活かしてM & Aを推進し、顧客基盤の拡大を図ります。

また、新たな商品やサービスの創造に向けた取り組みとしては、独自のIoTプラットフォーム「イワタニゲートウェイ」を活用し、地域の社会課題解決に貢献するサービスの実証や市場導入を進めました。

2022年4月より、石川県羽咋(はくい)市で、自治体や大学と連携して子供の見守りサービスを開始し、9月には長崎県五島市で、高齢者の見守りサービスを開始しました。

2023年度には、他の地域でも、サービス開始が予定されています。

他にも、当社が高効率ガス給湯器を設置したご家庭でのCO<sub>2</sub>排出削減量を、「イワタニゲートウェイ」で測定し、J-クレジットとして環境価値化する取り組みを進めています。

収益化には少し時間がかかりますが、社会課題解決に貢献する新しいサービスを拡充することで、地域やお客様にとって必要不可欠な事業者へと進化を遂げ、ひいては、当社事業の成長につなげていきます。

## ▶ 「海外事業の拡大」に向けて、安定供給体制の整備など、事業基盤を強化

### 主要な成果

#### 産業ガス・機械事業の海外事業拡大

- ・ 中国、東南アジアでの製造・供給拠点の拡大
- ・ Aspen Air社のM & Aにより米国でのエアセパレートガス事業に参入



(タイ ヘリウムセンター)



(米国 Aspen Air社)

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

26

「海外事業の拡大」については、サプライチェーンの混乱や、各種資源価格の高騰など、世界的に供給リスクが高まる中、各事業における供給体制強化を含め、着実に事業基盤の強化を行いました。

産業ガス・機械事業では、産業の成長が著しい中国・東南アジアにおいて、エアセパレートガスの製造工場やヘリウムの供給拠点を整備し、安定供給体制を強化しました。

米国では、エアセパレートガスを製造・販売するアスペンエア社を買収しました。これまで米国では、水素、ヘリウムなど、当社が強みを持つ特殊ガスを販売していましたが、より市場規模が大きいエアセパレートガスも販売できるようになりました。

本件買収を契機として、米国における更なる事業拡大と収益力の強化を図って参ります。

## ▶ 「海外事業の拡大」に向けて、安定供給体制の整備など、事業基盤を強化

### 主要な成果

#### 海外における安定供給体制、メーカー機能の強化

- ・ 海外第2の製造拠点となる、タイでのカセットこんろ工場の建設
- ・ 金属加工品工場の生産能力を2倍以上に拡大



(タイカセットこんろ工場)



(タイ金属加工品工場)

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

27

カートリッジガス事業では、中国に続く海外第2の拠点として、タイで、カセットこんろ製造工場を建設しました。

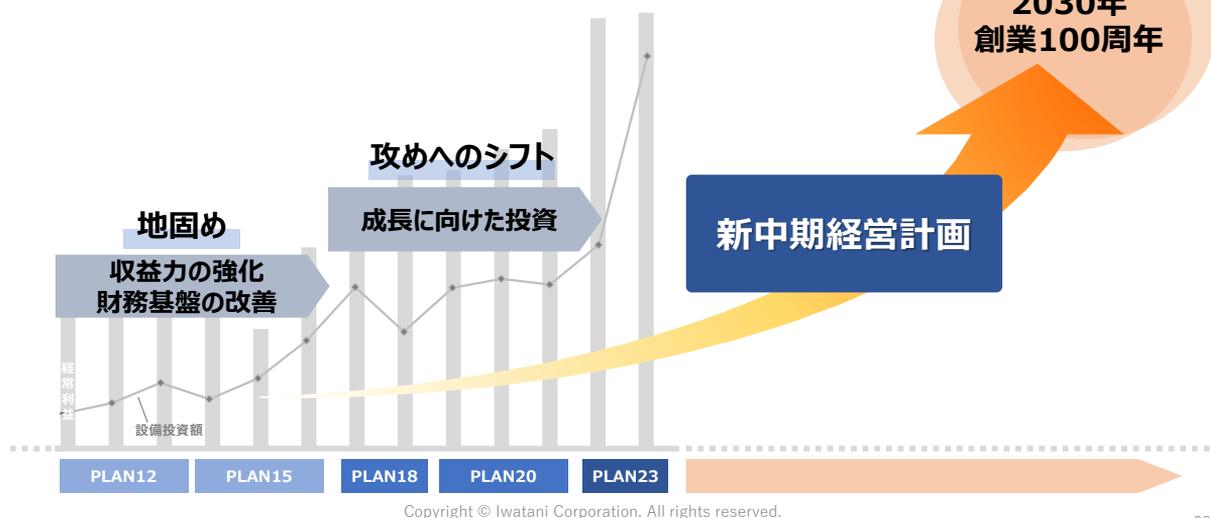
マレーシア、インドネシアを含め、東南アジア市場における需要が拡大する中、安定供給体制の強化を図り、カセットこんろ・カセットガスの更なる拡販に取り組みます。

マテリアル事業においては、資源の調達ソース確保に向けた投資や、メーカー機能の強化を進めました。

タイの金属加工品工場では、エアコン向け部品を製造していますが、今後、エアコン需要の継続的な拡大が見込まれることから、生産能力を2倍以上の規模に拡大しました。

引き続き、国内外の需給動向や、サプライチェーン再構築の動きも注視しながら、供給体制やメーカー機能を強化し、新たな需要を着実に取り込んでいくことで、事業の拡大を図って参ります。

▶ 2023年度を初年度とする新中期経営計画を策定中



以上が、PLAN23における取り組みの総括となります。  
この状況を踏まえ、現在、2024年3月期を初年度とする  
新中期経営計画の策定を進めています。

準備が整い次第、速やかに発表します。

# Iwatani

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.